

平成 26 年度 景観・デザイン委員会 第 1 回親委員会

議 事 要 旨

日 時：2014 年 12 月 6 日（土） 12:20～13:10

会 場：大阪工業大学大宮キャンパス 4 号館 4F 会議室

出席者（敬称略）：

<委員>北村委員長、伊藤委員（DI 編集小委員会委員長）、久保田委員、齋藤委員（デザイン賞選考小委員会委員長）、佐々木委員（防災復興小委員会委員長）、関委員（景観・デザイン研究編集小委員会委員長）、深堀委員、福井委員、松井委員、松田委員

<委員兼幹事>重山幹事長、飯田幹事、井上幹事、大波幹事、木村幹事、福島幹事、水谷幹事、山口幹事

議事次第：

1. 委員長挨拶
2. 新・旧委員および委員兼幹事報告
3. 各小委員会等活動および次年度の活動について
 - ・ 防災・復興小委員会
 - ・ 研究編集小委員会
 - ・ 平成 26 年度委員会会計関連報告
 - ・ コンペガイドライン検討 WG
4. その他活動について
 - ・ 学会賞推薦作業について
 - ・ 委員会活動の年間予定・対応について
5. 意見交換

資料：

- ・ 議事次第
- ・ 資料－1 委員会構成メンバー表
- ・ 資料－2 デザイン賞関連資料
- ・ 資料－3 デザイン賞検討 WG 資料
- ・ 資料－4 コンペガイドライン検討 WG 資料
- ・ 資料－5 平成 26 年度会計関連報告
- ・ 資料－6 平成 27 年度事業計画・予算調書（学会本部に提出）
- ・ 資料－7 第 11 回景観・デザイン研究発表会 2015 企画書
- ・ 資料－8 親委員会のルーティンタスク
- ・ 資料－9 学会賞推薦作業について
- ・ 資料－10 委員会共催・後援行事の実施方法等について
- ・ 資料－11 平成 25 年度第 3 回景観・デザイン委員会（2014.5.26）議事要旨・議事録
- ・ 別紙－1 景観デザイン研究発表会 シンポジウムの企画・運営・設営について

議事要旨：

1. 委員長挨拶

・北村委員長より挨拶がなされた。

2. 新・旧委員および委員兼幹事報告

(井上幹事) 本職の人事異動に伴い、山本委員の後任として柿崎委員が10月より新任された。また国交省卒の木村幹事が大学に異動したため、国総研の後任である西村さんに委員兼幹事を依頼したい。木村幹事には留任をお願いしたい。

3. 各小委員会活動および次年度の活動について

(重山幹事) 議事事項があるものについて先に議論いただきたい。

1) 防災・復興小委員会

(佐々木委員) 昨年の会議で小委員会活動を継続することになったが、今年度は特に活動を行っていない。できれば終了させていただきたい。

(井上幹事) 学会本部へのアンケートに対しては、佐々木委員との相談の上、これまでの活動成果とともに、今後は特に活動予定がない旨について回答している。

(北村委員長) 小委員会については、今年度で終了することとする。

2) 研究発表会 シンポジウム企画について

・水谷幹事より別紙-1について説明がなされた。

(水谷幹事) 予算については、本来は親委員会負担とすべきであるが、実際は難しいところがある。編集小委員会との分担について考える必要がある。

(大波幹事) 資料-5の今年度予算に記載の通り、調査研究拡充支援金は7月でないと金額が分からず、年度による変化も大きい。今年度は支援金が多く、親委員会の企画もなかったため、シンポジウム会場費は親委員会で負担可能である。

(関委員) 編集小委員会の立場からすると、今回のシンポジウムは会場費(約38万円)の負担が最も大きい。予算規模はシンポジウム全体で60万円程度である。企画等の工夫により、会場費を編集小委員会で負担し、謝金旅費等の費用(20万円程度)を親委員会負担としていただく方が良いと考えている。

(伊藤委員) 発表会冊子の広告費の管理金が30%である点を解決できないか。

(井上幹事) デザイン賞と同じく広告費を寄付として扱い、管理金を5%とするよう事務局と相談したが、最終的には30%のままとなった。

(水谷幹事) 費用を捻出するため、シンポジウムに協賛を得ることも考えられるが、現在も各企業に広告費やその他費用を負担頂いている中で、さらなる負担をお願いすることは難しい。

(齋藤委員) 管理金の負担額はどの程度なのか。

(関委員) 100~120万円程度であるが、その分学会から同額程度の予算の配分がある。

(北村委員長) 登壇者の謝金、交通費として、毎年20万円程度を親委員会で計上することとする。

3) 研究発表小委員会 来年度開催校について

・関委員、北村委員長により資料-7について説明がなされた。

(関委員) 飛行機で帰る方について配慮する必要がある。関東圏の方を意図的に最後にまとめるなどの工夫が必要と考えている。

4) コンペガイドライン検討 WG

(久保田委員) 来年の 4 月より建設マネジメント委員会に小委員会を立ち上げることになった。組織上は景観・デザイン委員会から離れるが、引き続き活動を行っていく。

4. その他

1) 学会賞推薦作業について

(重山幹事長) 推薦作業を円滑に進められるように議論を行いたい。

・井上幹事より資料-8 について説明がなされた。

(伊藤委員) 資料-9 には D1 編集小委員会の推薦と被らないようにする必要があるとの記載があるが、推薦をまとめる方が受賞の確率は高くなる。審査についても別途査読者を定めるので、ばらつきがあると散漫な印象になることも考えられる。また、プロセスに関しては、委員長による推薦書のチェックと事務局への提出の間に、学会への確認作業に相当するものが抜けていると思われる。

(佐々木委員) 景観部門で調整してまとめる方が良いのではないか。D1 の論文以外を推薦したい場合には、親委員会が別に推薦することができる。

(深掘委員) 以前は幹事会で論文推薦候補を議論していた。その過程が必要ではないか。

(北村委員長) 幹事会で担当等について議論いただきたい。

5. 意見交換

(松井委員) 100 周年宣言文では景観の文言は僅かであった。あまり主張しすぎるのも問題だが、戦略的な広報について考える必要がある。

以 上
(文責：木村)